

クマの生態と分布

～体格・運動能力～

- ・成獣は、全長 110～130cm、体重 40～135kg 程度
- ・ヒグマよりは小型だが、本州の陸上哺乳類の中では最大
- ・走行能力は人間より優れる 穴掘り、木登りが得意
- ・嗅覚：イヌ、イノシシなみに鋭い
- ・聴覚：人間よりは優れるが、何か（食べることなど）に夢中になると音に気が回らなくなる
- ・視覚：他の野生哺乳類よりも優れているとは言えない
- ・触覚：皮膚が剛毛に覆われているので、有刺鉄線に触れても平気

～食性・行動～

- ・雑食性で、植物質から動物質まで様々なものを食べる
- ・春：草や木の新芽 夏：昆虫類
- ・秋：木の実 その他、シカなどの死体も
- ・1頭あたりの行動圏は、オス 100 km²以上、メス 50 km²程度
- ・なわばりを持たず、個体同士の行動圏が重なることがある

～冬眠・繁殖～

- ・12月～4月頃まで、樹洞や岩穴、木の根本の穴などで冬眠
- ・冬眠をする他の種と比べ、体温の降下度合いが少ない
- ・冬眠中は、摂食、飲水、排泄を一切行わない
- ・初夏に交尾し、メスは冬眠中に出産する
- ・メスが産卵するかどうかは、冬眠前の栄養貯蓄状態に左右される
- ・初産年齢は4歳程度、2～3年に1度の割合で産卵、1回の産卵数は1～2頭

～クマ被害の対象～

- ・人身被害（死亡事故を含む）
- ・精神的被害（集落の周辺や住宅地の中、学童の通学路などに出没するなど、また、観光地での出没による集客への影響など）
- ・剥皮被害（皮はぎ）による造林、林業被害
- ・リンゴ、柿、梨、桃、栗、ビワ、ブドウ、プラムなどの果樹被害
- ・スイカ、デントコーン（とうもろこし）、スウィートコーン、カボチャなどの野菜や、米などの農作物被害
- ・デントコーンや配合飼料の食害や、牛、馬、豚、羊、鶏等が食害を受ける家畜・家禽被害
- ・養蜂被害
- ・人家などの建物への侵入や、建築物が壊される被害
- ・その他の被害（養魚場の被害、人家・観光施設・キャンプ場・山小屋などのゴミ捨て場を荒らす、コンポストを荒らす、お墓のお供え物が荒されるなど）

～分布・地域個体群～

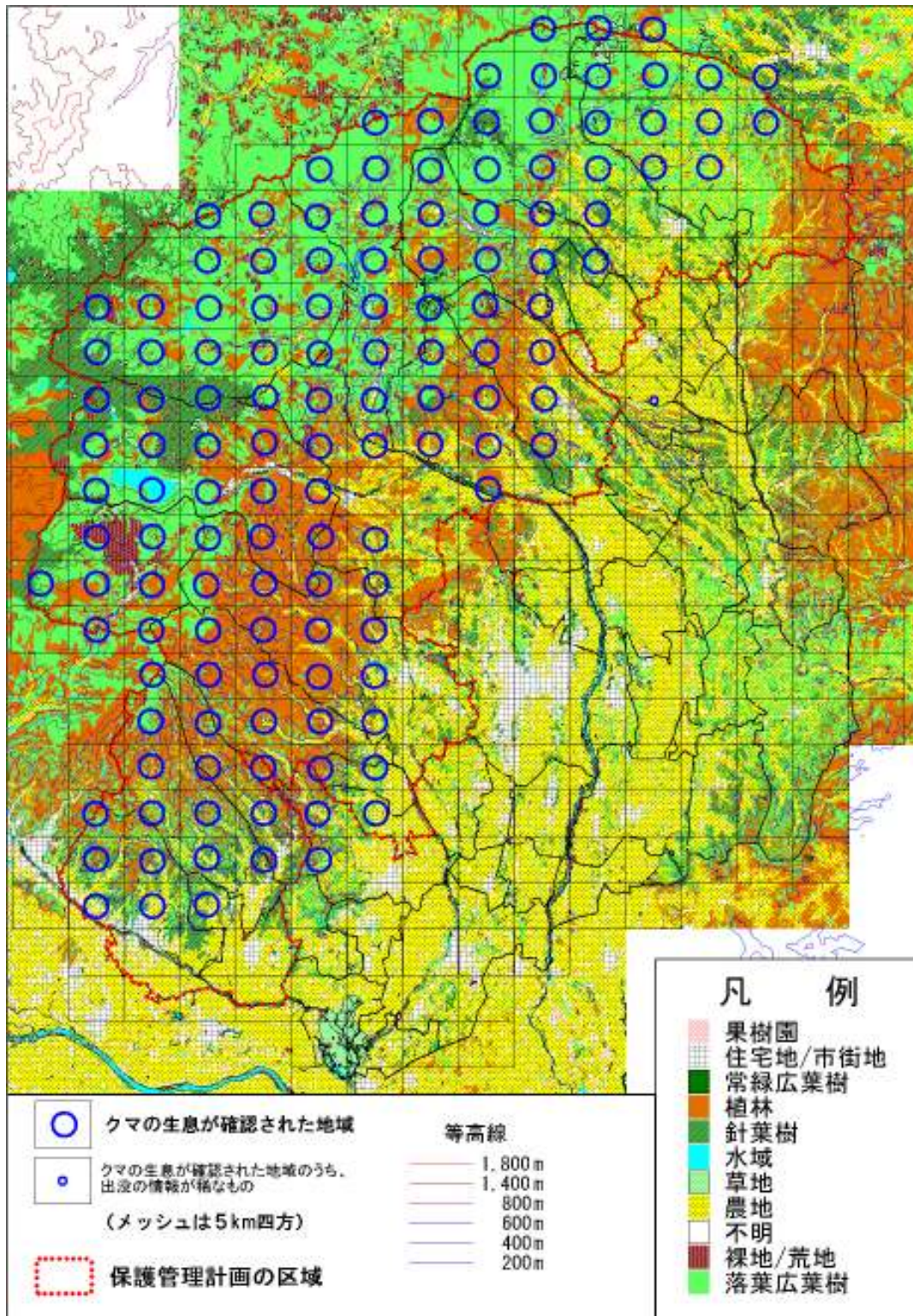
※ ※※

栃木県に生息するクマは、越後・三国地域個体群に属すると考えられる



※ 福島、新潟、栃木、群馬、長野の5県に跨る地域個体群分布域

※※ 地域個体群分布域は、農地や都市など土地利用状況によって区分されることが多い



1979年（環境庁）・1994年（栃木県）・2002年（栃木県 a）・2002年（栃木県 b）及び狩猟捕獲報告、有害鳥獣捕獲許可事例から

< 栃木県内のクマ生息確認区域 >